◇ 田んぼのカエル調査用紙

調査した人の名前；

調査日時
気温
水温
ｐＨ　　ｐＨ（　　）
前日の天候
畦の方向
畦畔の草刈り　　草刈り後およそ（　　）日

簡単な見取り図　　→

見取り図

調査場所　　（　　）圃場整の有無（　　）

■Ⅰ　田んぼの畦を中心としたカエル調査

【必要な道具】　数取り計（カウンター），図鑑，筆記用具，
【調査の方法】　田んぼの畦（あぜ）をゆっくり歩きながら畦と畦から飛び込む個体数と種
　カエルは草むらにかくれていることが多いので，ゆっくりと歩きながら畦を追い出すようにします。
＊沈んだままの場合は、アカガエルのことが多い。トウキョウダルマやトノサマガエルは飛び込んだ後、一度浮かぶことが多い。

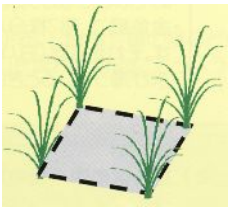
調査場所	地区名								合計	100m当たりの個体数	地区名								合計	100m当たりの個体数
畦の方向毎の調査	A	B	C	D	E	F	G	H			A	B	C	D	E	F	G	H		
1　ニホンアマガエル																				
2　シュレーゲルアオガエル																				
3　モリアオガエル																				
4　ニホンアカガエル																				
5　ヤマアカガエル																				
6　トノサマガエル																				
7　トウキョウダルマガエル																				
8，ツチガエル																				
9、　ヌマガエル																				
１０　アズマヒキガエル																				
１１，ニホンヒキガエル																				
１２、ウシガエル																				
13、不明種																				
14,																				
15,																				

■Ⅱ　田面を中心としたアマガエル調査

【必要な道具】　数取り計（カウンター），筆記用具,
【調査の方法】　田面をゆっくり歩きながら２０株調査（全体で５ケ所計１００株）を上から見て調査する

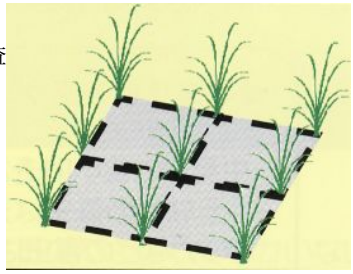
調査場所	地区名								合計	100株当たりの個体数	地区名								合計	100株当たりの個
田面の20株毎の調査	A	B	C	D	E	F	G	H			A	B	C	D	E	F	G	H		
1　ニホンアマガエル																				

■Ⅲ　オタマジャクシ調査



■　左のように１株分の調査は、４株分に囲まれた範囲

■　右のように４株分の調査
９株分に囲まれた範囲



■　４株に囲まれた範囲（１株当たりになる）を見るのが基本、一株では少なすぎる場合は、４株分を数える

■　あたりを見通しで、平均的な偏っていない場所を数える。例えばオタマジャクシが５匹いるとするとする。しかし、その当たりだけが多いのかもしれない鴨知れないので、周囲を見渡してみる。

周囲にも同じぐらい居るようだったら、念のためにもう２～３株、できれば５株分を数えて平均をだすようにする

■　１株では、個体数が少なすぎると感じた場合は。４株分を数える。

オタマジャクシ調査結果

調査した人の名前；

調査日時
気温
水温
ｐＨ　　ｐＨ（　　）
前日の天候
畦の方向
畦畔の草刈り　　草刈り後およそ（　　）日

	1	2	3	4	5	平均
株調査 株						

カエルの調査

カエルは赤とんぼとともに水田の風景を代表する身近な生き物です。それと同時に害虫を食べてくれる天敵です。カエルに食べ物を吐き出させるとその中からたくさんの害虫が見つかります。また、ニホンアマガエルがいる田んぼといない田んぼを比べるといる田んぼでは害虫の発生が少ないことがわかりました。さらにカエルは哺乳類や鳥類など水田周辺の野生生物の胃を満たし、豊かな生態系を支えてくれています。カエルの幼生（オタマジャクシ）は田んぼの水の中で暮らします。そのため、田植え前の田んぼが乾いているか水があるか、稲を植えた後に水を切らさずに栽培するか乾かしながら栽培するかなど、田んぼの水はけや水管理の方法によって種類や数が大きく変わる可能性があります。水を中心にカエルが住みやすい田んぼの条件を考えてみましょう。また、どのようなカエルの多い田んぼで害虫がどれだけ少ないか、あるいはサギなどの鳥類が本当に多くなるかなど、それぞれの生き物たちの結果と比較して、カエルがいる風景の意味を考えてみましょう。

▼必要な用具

・タモ　・カウンター　・メジャー（50m程度まで測れる物）　・図鑑

▼方法

田んぼのあぜをゆっくり歩き、田んぼの内側、稲株3条分までに出現したカエルや生き物の種類と数を数えます。可能ならタモで捕獲して、種を確かめます。3人が一組となって、先頭の1人がカエルを田んぼ側に追い出し（同時にビデオ撮影をすると正確）、1人がカウンターで数えます。出現した生き物の数を数えた後、移動した距離をメジャーで測り、100M当たりの生息数に換算します。トウキョウダルマガエルは、水中に飛び込んだとき、1度もぐった後、浮かんできます。これに対してアカガエルの仲間は、飛び込んだ後も水中にもぐっていることが多いので、このような特徴からも大まかに種類を見分けることができます。また、ニホンアマガエルは色を周囲に合わせて変えることができ、土色、あるいは緑色でも同じアマガエルなので、注意しましょう。子供や、初めての人が調査するときは、付近からカエルを少し捕まえてきて、バケツに入れます。実物と図鑑を見せながら、見分け方